５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | ＪＮＣ石油化学株式会社<br>市原製造所 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5　2 | 5　3 | 5　4 | 5　5 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ＪＮＣ石油化学株式会社<br>市原製造所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 三井･ﾃﾞｭﾎﾟﾝ ﾎﾟﾘｹﾐｶﾙ株式会社　千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5　6 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 三井･ﾃﾞｭﾎﾟﾝ ﾎﾟﾘｹﾐｶﾙ株式会社　千葉工場 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２５年度 | 平成２５年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 電気化学工業株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 9 | 3 1 | 3 9 | 4 1 | 5 1 | 5 3 | 5 6 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更しました。

【対策３】について

・ポリスチレン、ＡＳ樹脂、ＭＳ樹脂等の製造プロセスを、バッチ重合法から

ＶＯＣ排出量の少ない連続重合法へ転換しました。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 電気化学工業株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 日立化成株式会社<br>五井事業所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 9 | 2 1 | 2 3 | 3 2 | 5 1 | 5 6 | 9 1 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| 対策１　19：ポリスチレン発泡剤の使用廃止 |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 日立化成株式会社<br>五井事業所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 旭硝子株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 1 3 | 3 1 | 3 2 | 5 3 | 5 4 | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 旭硝子株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 極東石油工業合同会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1 について

・充てん出荷施設に設置稼動している炭化水素回収装置（ＶＲＳ）の吸収溶液について、計画通り出荷作業台数に対する適正循環量調整を徹底し回収率を高めました。

・ＶＲＳの回収率目標８５％以上に対して、平成２５年度実績は適正な運転調整を行なった結果９５％を維持しました。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 極東石油工業合同会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。（一部に課題がある。） | 削減目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。） | 計画年度の目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

・炭化水素回収装置（ＶＲＳ）の吸収溶液循環量の適正管理により目標年度の達成値を順調に維持しています。

・社会の経済的な諸事情等により年間原油処理量が計画より減少した。それに伴い石油製品の生産が減少し、計画値より少ない排出量となっています。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 矢澤光学塗装株式会社 千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 2 3 | 3 4 | 5 1 | 9 1 | 3 3 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 矢澤光学塗装株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 日本リファイン株式会社 千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 9 | 3 2 | 5 2 | 9 1 | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

屋外貯蔵タンクの品種変更の為の洗浄乾燥の際に、親水性の有機溶剤を水洗により回収した後、乾燥する手順を遵守する。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 日本リファイン株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２４年度以前 | 平成２５年度 | 平成２６年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| Ⓒ | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

作業手順の変更による削減は、計画通りに行い、その効果も期待通りの結果であり今後も継続していく。

高沸点溶剤の取扱いの割合を増やすことで、削減できると計画していたが、実績では、高沸点溶剤が増加し、低沸点溶剤が変わらず、計画通りにはいかなかった。また品種毎の取扱量が小口化しており、タンクの切り替え洗浄、乾燥回数が増加して排出量が増加する原因となっている。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 三菱製鋼株式会社<br>千葉製作所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 2 | 3 4 | 5 1 | 5 4 | 5 9 | 9 1 | 9 9 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| 対策７について |
|---|
| ・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善する。 |
| ・塗装仕様を客先と打合せて変更する（重ね塗り回数の削減）。 |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 三菱製鋼株式会社<br>千葉製作所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | ティー・エム・ターミナル㈱ 市原事業所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 1 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ティー・エム・ターミナル㈱ 市原事業所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＜課題と対策＞

・TA-302、303タンク（1000KL以上）については、炭化水素回収装置に接続されており、排出ガスの99%を回収しているが、取扱商品の入替が頻繁にある為VOC対象品目の取扱いが増えれば基準年度の排出量を達成することは困難となることもある。

このような状況ではあるが、タンクは直射日光により温度が上昇し排出量が増えることから、熱エネルギーを吸収する塗料を塗布し、タンクの温度上昇を抑えている。

（Ｈ２２．７　ＴＡ－３０２　２０００ｋｌタンクに施工）

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 宇部興産株式会社<br>千葉石油化学工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 9 | 3 1 | 3 9 | 5 4 | 9 1 | 4 9 | 5 1 | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| ・平成２１年度に脱臭装置ガスクロを増強、脱臭入口ＶＯＣ濃度を測定できるようにした結果、 |
| ３系列の負荷調整が出来るようになった。また、廃ガス処理温度と脱着／吸着サイクルの |
| 最適化を行なうことで脱臭塔出口ＶＯＣ放出量を削減できた。 |
| ・平成２４年度に１系列増加し４系列になったが、３系列時と同様な負荷調整を行っている。 |
| ・平成２５年度に脱臭装置の負荷増加防止の為、別系統のＲＨガスの脱臭装置送りを禁止した。 |
| （ＲＨガスは全量燃焼処理へ） |
| 対策３について |
| ・平成２２年度に自主的取組対象施設以外で屋外タンク貯槽所の原料受入時ガスのローリー |
| 戻し設備を設置した。 |
| ・ポンプ更改等によりシール部からの微量漏れの是正を継続的に進めている。 |
| 対策６について |
| ・平成２３年度に屋外タンク貯槽でベントが大気オープンになっているタンクを窒素シール |
| 化工事を行った。 |
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 宇部興産株式会社<br>千葉石油化学工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 丸善石油化学株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合せて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 3 2 | 4 1 | 5 1 | 5 3 | 5 4 | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 丸善石油化学株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（３）自主的取組実績の評価

ア　（１）の計画年度における削減率について進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。（一部課題がある。） | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。） | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

平成２５年度は生産量の増加に伴い、目標年度数値を達成できなかった。

排出の殆どが貯蔵施設からの呼吸ロスとなっている。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価がＣの場合は、必ず記載すること。

5　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ファインケミカル株式会社千葉事業場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 3 1 | 3 9 | 4 9 | 5 2 | 5 3 | 5 4 | 5 7 | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策３(39) |
| 屋外タンクから原料中間タンクへの補充方式を液面一定で補充することに設備変更を行い、原料中間タンクの受け入れ時の排出ガス削減を継続中。 |
| 対策４(49) |
| タンクローリーからの受け入れ排出制御のベーパーリターンラインを設置済み。 |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ファインケミカル株式会社千葉事業場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 東レ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 9 | 5 6 | 5 2 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

１．対策１について

アクリロニトリルタンク設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け－２０℃にして、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。

２．対策３について

第６期ＰＲＴＲ対象物質自主削減対策設備（スクラバー吸収）を、平成２３年度に稼動した。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東レ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある） | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部課題がある） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

１．第６期ＰＲＴＲ対象物質自主削減対策設備を稼働したが、当初の計画よりも除去率が低く、計画年度削減率実績値が計画値未達成となった。

２．第７期ＰＲＴＲ対象物質自主削減対策を検討する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 京葉モノマー株式会社 ／<br>京葉モノマー株式会社 ／ |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 9 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１：①設備の不具合による計画停止対策の処置

a. 精留塔のｼﾞｪｯﾄ､ﾊﾞｷｭｰﾑ清掃(DA301, 302, 303, 304, 501, 502)

b. DA502ﾄﾚｰﾀｲﾌﾟ変更(詰り防止)

c. 経年劣化設備等の更新

②類似する設備の予防保全

a. 経年劣化設備等の更新

b. 断熱配管の点検及び更新

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 京葉モノマー株式会社<br>京葉モノマー株式会社 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 事業所が訂正. |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

1. これまで排出量の削減対策を進めてきたが、現状は安定・安全運転が最大の課題である。

2. 排出量増加に対する削減対策は、安定・安全運転を継続するための設備改造や、精留塔の洗浄方法の改善等で、平成26年定修（平成26年2月中旬～3月中旬）においても実施した。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | ＪＳＲ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 5 6 | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | ＪＳＲ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 9 | 4 1 | 5 2 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（対策３９について）

従来、粗ﾍﾞﾝｾﾞﾝは弊社他事業所へ船転送し処理していましたが、平成13年６月以降、当事業所内処理に内製化することで海上出荷に伴うＶＯＣ排出量を削減しました。

（対策４１の補足説明）

ナフサ等揮発性有機化合物は浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに貯蔵し、貯蔵に伴うＶＯＣ排出量を削減しました。

（対策５２の補足説明）

タンクローリー充填・出荷施設にはＶＯＣ回収設備を設置し、ＶＯＣ回収率９０％以上の高回収率運転を行い、タンクローリー充填・出荷に伴うＶＯＣ排出量を削減しました。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | ライオン株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策１ | 対策２ | 対策３ | 対策４ | 対策５ | 対策６ | 対策７ | 対策８ | 対策９ | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １　９ | ３　９ | ５　３ | ９　９ | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| ・原料使用量低減によるＶＯＣ発生量の削減。 |
| 対策２について |
| ・合成洗剤製造工程の改善によるＶＯＣ発生量の削減。 |
| 対策４について |
| ・界面活性剤の製造条件改善及び合成洗剤中の組成改善によるＶＯＣ発生量の削減。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | ライオン株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 星光ＰＭＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３　９ | ５　２ | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| ３９：ＩＳＯ１４００１　ＶＯＣ削減計画の実行 |
| ：タンクローリー車で屋外タンクに原料を納入する時、均圧管設置し対応 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 星光ＰＭＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | ＤＩＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 3 | 3 1 | 4 1 | 5 1 | 5 2 | 5 4 | 5 6 | 9 1 |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ＤＩＣ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 日本曹達株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 5 1 | 5 2 | 5 3 | | | | | | |

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 日本曹達株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（３）自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評　価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。（一部に課題がある。） | 削減目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。） | 計画年度の目標を概ね達成できた。（一部に課題がある。） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 住友化学株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | 5 6 | 5 9 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策 2 |
| 当千葉工場の合成ゴムプラントで排出される、ｎ－ヘキサンについて蓄熱燃焼設備の設置 |
| 工事は平成２１年５月末に完成しました。 |
| |
| 対策 3 |
| ①当千葉工場の高圧ポリエチレンのペレットサイロから排出される酢酸ビニルについて、 |
| サイロの排出ベント配管を、ボイラーの燃焼空気に接続して酢酸ビニルを燃焼させて |
| いる。平成１９年１０月に工事が完成し、平成２０年２月より処理を開始した。 |
| ②エチレン工場のプロセスガスクロベントの大気放出からフレアーに接続（焼却） |
| １３台のプロセスガスクロの改造を、平成２３年１０月に完成して、１１月から使用 |
| 開始した。 |
| ③高圧ポリエチレン工場の酢酸ビニルタンクのベントラインをフレアーラインに接続し |
| て焼却する工事が平成２４年２月に完成して、３月から使用開始した。 |
| ④高圧ポリエチレン工場のエチレン大気放出の削減（フレアーラインに接続して焼却） |
| 環境省のＶＯＣ削減計画が確定したら、工事予算を策定して平成２７年までに実施する。 |
| 平成２３年１０月にフレアーラインに接続ノズルの設置が完了した。 |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 住友化学株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 広栄化学工業株式会社<br>工場（姉崎地区） |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 2 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 広栄化学工業株式会社<br>工場（姉崎地区） |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 三井化学株式会社<br>市原工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 3 | 3 1 | 3 2 | 3 4 | 5 1 | 5 2 | 5 3 | 5 4 | 5 5 | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 三井化学株式会社<br>市原工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある） | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ダウコーニング㈱<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東レ・ダウコーニング㈱<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２２年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

揮発性有機化合物の使用量が前年と比べて減少したため、計画していた削減目標が達成できました。今後も継続的に溶剤の低VOCの導入を検討します。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 三井造船株式会社<br>千葉事業所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 2 | 1 9 | 2 2 | 5 4 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

建造船居住区内で使用する塗料の一部を水性塗料へ切替え

（その四）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 三井造船株式会社<br>千葉事業所 |

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、

該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（2）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（1）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 4 1 | 5 1 | 5 9 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

・出光興産㈱千葉工場では、これまでに固定屋根式タンクを内部浮屋根式タンクへ変更、および、排出ガス中の揮発性有機化合物を吸着回収する設備の設置等により大気中への排出量を減少してきた。

・平成21年度はポンプ軸封からの飛散を減少させるために、軸封の改善を実施した。

・平成24年度は大気への排出量削減のため、ポリカーボネート装置の排水ストリッパーの設備改造を行った。しかし、生産計画その他の要因で、一部施設の停止・稼働を繰り返したことから結果的に排出量は増加した。

・平成25年度は製造施設の安定運転継続により、排出量は通常レベルとなった。

以上

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社プライムポリマー 姉崎工場 |
|---|---|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 3 | | | | | | | | | |

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(株)プライムポリマー姉崎工場では、基準年度以前から貯蔵タンクの排出口に凝縮器を設置し、排ガス中の揮発性有機化合物を冷却して凝縮液化回収する事で、大気排出量の抑制に努めている。

また、平成25年度から一部施設の廃止により排出量は基準年と比べ半減している。

以上

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社プライムポリマー 姉崎工場 |
|---|---|

⑶自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)。 | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。 | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

現状は全社方針によりVOCの削減対策はないが、2015年度にパウダー乾燥サイロから排出されるVOC(ヘプタン)、約80,000kg/年を回収する設備改造を計画している。

以上

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | ＢＡＳＦ出光株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ５　４ | ５　５ | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

ＢＡＳＦ出光株式会社　千葉工場では、基準年度以前から、直接的な燃焼処理や触媒を使った接触酸化により、揮発性有機化合物を炭酸ガスと水蒸気に変え、大気中への排出抑制に努めている。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ＢＡＳＦ出光株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

| 工場又は事業場の名称 | PSジャパン株式会社<br>市原工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 3 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

ＰＳジャパン㈱市原工場では、基準年度以前からVOC排出口は凝縮器設置により回収を行い排出削減に努めている。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | PSジャパン株式会社<br>市原工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

平成２５年６月に生産を停止し、その後装置を撤去して、平成２６年４月末をもってＰＳジャパン㈱市原工場は閉鎖となるため、今回が最終報告とする。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

２位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

{（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量}×１００

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　エドビ成東工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1　2 | 2　1 | 2　3 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　エドビ成東工場 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２５年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | コスモ石油株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 1 | 5 2 | 5 9 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策2の第１陸上出荷場（ローリー出荷）及び第２陸上出荷場（タンク貨車出荷）における揮発油の積み込み時に発生するＶＯＣ対策としてＶＯＣ回収装置（吸収溶剤：灯油）を既に設置しており（第１：昭和６３年、第２：平成２年）、これを維持・管理し、ＶＯＣ回収率８５％以上で運用した。　また、対策1として、現在、原油、揮発油（製品ガソリン、中間ガソリン、ナフサ等）、ＪＥＴ燃料のタンクは全て浮き屋根式及び内部浮き屋根式であり、タンクのＶＯＣ対策は、本条例の基準年度以前に全て完了しており、これらのＶＯＣ対策済タンクの維持・管理を確実に実施した。対策3のその他として、少しでもＶＯＣ吸収を改善する為に、夏期に対策2の吸収設備に冷却散水を実施した。ＶＯＣ対策対象施設の対策は全て本条例の基準年以前に完了しており、その後、生産設備を増強しており、ＶＯＣ対策を確実に実施・継続している。 |
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | コスモ石油株式会社<br>千葉製油所 |
|---|---|

（３）自主的取組実績の評価

ア　（１）の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２５年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

平成２３年３月及び平成２４年６月に発生した事故の影響で全面停止した装置がほぼ復旧したため、平成２５年度の製品の出荷量が増加し、ＶＯＣの排出等の量も増加しました。

昭和６３年、平成２年に、陸上出荷のＶＯＣ回収装置は導入済であり、タンクもＶＯＣ関連タンクは、全て浮き屋根式及び内部浮き屋根式であり、ＶＯＣ対策は基準年のＨ１２年以前に全て完了しています。この為、ＶＯＣ対策設備の維持・管理を確実に実施します。　また、夏期は少しでも回収効率を上げる為に、ＶＯＣ回収装装置に対し冷却散水を実施します。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　エドビ成東工場 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２５年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 大洋塩ビ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 9 | 3 1 | 5 9 | 9 9 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・安定操業に努めました。

【対策３】について

・廃液処理塔を設置し、スチームストリッピングにより排水中の塩ビモノマーを回収しました。

【対策４】について

・タンク解放前に水張りを実施し、塩ビモノマーガスを回収しました。

・タンク解放前に窒素で置換し、塩ビモノマーガスを回収しました。（H24年度）

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 大洋塩ビ株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。